

職業講演会

10月6日(水)の午後、16名の講師をお招きして職業講演会を開催しました。

65回生1年生では、進路学習テーマである「職業研究」を通して、自分の将来についての在り方、生き方を考えさせています。数多くの職種について学び、それぞれの分野でのやりがいや厳しさを知ることによって「働く」ということについてさらに興味・関心を持たせ、生徒たちの進路に対する意識を高めたいと考えています。

具体的には、夏休みに「職業インタビュー」と「職業研究レポート」を作成し、LHRでの発表・討議をとおして、お互いの研究発表を聞き、自分が調べた職業とは異なる職業について考えを深めました。そしてこの「職業講演会」では、様々な職種の方々から実際に職業についてのお話を伺う貴重な機会となりました。何事においても、「プロ」の話には説得力があり、その方の意欲・情熱といったものがこちらに伝わってきます。また、仕事の内容だけではなく、その人の職業観・人生観に直接触れることで、仕事に対する生徒たちの意識も徐々に確立されつつあるのではないのでしょうか。

これから普通科の生徒には、「文理選択」というひとつの岐路が待ちかまえています。この講演会の経験をもとに、是非主体的に考え、行動してもらいたいものです。

【講師の方々の職種一覧】

弁護士、警察官、自衛官、ツアーコンダクター、放送局、大学教員、獣医師、銀行員、システムエンジニア、地方公務員、豆腐製造、製薬会社、会議通訳者、原子力プラント設計、医師、家電メーカー

【講演風景】





【生徒感想文の抜粋】

「社会のために、人のために」したことが、いつか自分にかえってくるんだ、ということを深く感じました。先生は、僕が想像していた「豆腐屋」とは全く違ったものでした。常に新しいものを、常に人のために、そんな姿勢を見習い、これから生きていきたい。湯葉も豆乳もおいしかった。また家でも豆腐を作ってみたい。

今回の話は、分野の知識より「働く人」としての大切なことを教えていただいて、本当によかったです。まず、ルール、時間を守るといった人として常識なことから、お客様に対する謙虚な姿勢など、どれも感心させられることばかりでした。毎日、ドルや日経株価を記録することを20年も続けてこられた手帳を見せていただいたときは、本当にすごいと思いました。

放送局は、「想い」を伝えるというのが大切な所だと思いました。「伝える」というのは本当に大切で、自分の想いに嘘をつかずに伝えることは大切なんだと改めて思いました。表に立っている人も裏に回って仕事をしている人も、「テレビという立場でお客様に恩返しをしたい」という熱い想いを一つにして頑張っておられるのだ、と感心しました。

「医師」というイメージが大きく変わった。医師は、患者を診て、病気を治す人だと思っていたが、病気を診るのではなく、患者の人生までみていると聴いてすごいなと思った。専門医が増えているこの世の中であえて大変とされる総合医という仕事に就かれたのは、「自分がやります」という先生の積極的な人格が表れていると思う。先生はそれを「この小野高校で身につけた」と言われていた。「sustain」この言葉を心に留めよう。